



教育は学校・家庭・地域のつながりです

石川県教育委員会

教育長

木下 公司

石川県社会教育協会の皆様には、日頃より、本県の生涯学習・社会教育の振興に多大なるご支援をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。また、昭和二十一年の貴協会発足以降、長きに渡って県内の生涯学習事業に関する調査、講演会の開催、機関誌の発行等を行ってこられたことに深く敬意を表する次第であります。

さて、現代社会においては、日進月歩の勢いで新しい知識や技術が生み出され、それが、インターネットに代表される情報通信技術によって、日夜発信されております。平成十七年の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」において、二十一世紀は新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域で重要性を増す「知識基盤社会」の時代であると述べていますが、世はまさにその様相を呈しています。「子どもは社会の宝、国の宝」と言われてきましたが、このような「知識基盤社会」の時代においては、人材こそが資源であることを再認識し、社会全体で、新しい時代を切り拓く豊かな心と発想力を持った、健やかでたくましい人材を守り育てていかなければなりません。

しかし、近年の教育状況に目を向けますと、基本的な生活習慣の乱れ、学ぶ意欲や体力の低下、いじめや不登校の問題など、様々な課題が生じております。これらの課題の解決に向けて、学校は日々努力しているわけですが、今や学校だけでこれらの課題を解決するのは、難しい状況にあります。なぜなら、こうした課題の背景として、少子高齢化や核家族化に伴う家族間の人間関係の希薄化や、都市化等に伴う地縁的なつながりの希薄化により、家庭や地域の「教育力」が低下していることが懸念されるからです。

かつては、兄弟姉妹も多く、また、祖父母と同居しているこ

とは一般的でした。地域の人々とのつながりも密接であり、皆が子どもたちを自分たちの地域の子どもとして見守り、育てていたのです。そういう環境の中で、子どもたちは周囲の大人たちから注意され、あるいは自分よりも年下の子どもたちの世話をするといった体験を通して、礼節や慈愛の心を自然に学んでいたのです。

社会が変化した今、すべての家庭や地域というわけではありませんが、かつてと同じ形の「教育力」を家庭や地域に求めることは難しい状況になりつつあります。しかし、人として身に付けていかなければならないことは、今も昔も変わりはありません。子育てにとっても、教育の出発点である家庭や地域の教育力は、時代が変わっても大変重要な役割を持っているのです。

現在県教育委員会では、学校開放や学校支援地域本部の設置などを意図的・積極的に進めることで、学校と家庭、地域のつながりを築く取組を推奨しています。子どもを育てることについて、三者がつながり、同一の方向性をもって取り組むことができれば、それぞれにおいて弱くなっているところや欠けているところを補完することができるのではないかと考えております。

地域の教育力とは、そこにある自然であり、人々の営みであり、古くから守り伝えられてきた伝統です。そして何よりそこに住む人の力であると考えます。新しい時代になったとは言え、学校や家庭と新たな連携を築くことによって、地域は教育力を発揮する可能性を十分に秘めています。貴協会を始めとする社会教育関係団体の皆様には、今後こうした連携の橋渡し役あるいは人材の提供役として活躍いただき、これまで以上に本県の教育振興に関して、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

視 点